

再開！ 千葉市立横戸小学校 自然観察会

小川洋子（八千代市）

7月7日（火）に千葉市立横戸小学校（以下横小）で自然観察会を行いました。新型コロナウイルス感染症対策で3月以降多くの観察会が中止になっている中 協議会再開第1号になりました。再開までの過程と観察会について報告いたします。

横小は千葉市花見川区の北東の端 八千代市との境に位置しています。創立140年以上の歴史がありますが、現在の生徒数は120名余の小規模校です。横小には千葉市内唯一の学校林があります。この好環境を活かしたいとSSNは横小と協力して観察会を実施して10年以上になります。対象は1年から6年までの全学年で、年10回実施しています。次年度の計画は前年度の3月末までに決めていただいておりますので、担当指導員（5名）は各々の活動計画が立てやすく 助かっています。

さて今年度の観察会です。3月2日から小中学校の休校が決定され、4月以降も休校が続きました。ようやく6月に学校は授業が再開され、横小から7月の観察会実施の要請がありました。この段階でかなりの学習の遅れが想定されていて、千葉県の感染者数が減ってきて 感染のリスクが少なくなったと言える状況ではなかったもので、よそ者である私たち指導員が学校に立ち入って良いものかも疑問でした。そこで6月5日に横小に伺い 教務主任の先生と話し合いを持ちました。この春異動してこられた先生は 子供たちが学校林で豊かな体験をしていることに驚かれたそうです。学習もさることながらコロナで委縮しがちな子供たちを自然と触れ合うことで伸び伸びさせたい とのことでした。迷惑ではないかという私たちの心配は杞憂でした。感染対策を話し合いフェイスシールドは使用せずマスク着用・体温測定をして、児童間の間隔を十分とるようにすることで実施と決まりました。

例年ですと7月は4年生が四季の学校林を観察する2回目です。それぞれが林の中で選んだ木を1年にわたって観察するのですが、今年は春の会が実施できませんでした。プログラムは練り直しです。いつもなら見つけたものは全員でシェアしてきましたが、それもNGです。教材を回さず各々が手に取って観察できるもの、ということでテーマは「葉っぱのいろいろ」になりました。リーダーはプログラム作成にご苦労されたことと思います。

観察会当日は強風でしたが、これは感染対策に好都合でした。朝礼台前に集合して挨拶も早々に班ごと（4班）に観察開始です。まずは遠くから学校林を観察し、その後は自分のイメージで葉を描いてみる、それから本物の葉を観察しました。学校林内では班ごとに距離をとるように気を付けながらの観察です。子供たちは、葉の上に紙を置いて色鉛筆でこすって 形をとったり 描いたり 触ったり 匂いを嗅いだりして、葉の縁の違い、葉脈の存在と役目、匂いのあるなし、スベスベ ザラザラなどいろいろな気づきがありました。時に虫捕りに走ったり、花摘みを楽しむのも横小観察会ならではのです。子供たちから面白かった、楽しかったという感想が多く聞かれました。スタートから終了まで校長先生・教務主任の先生も参加して一緒に楽しんでくださいました。このような学習が可能なのも学校林があるからです。横小の子供たちは本当に恵まれていると改めて思いました。

担当指導員：内島くに子、落合啓子、松尾千鶴子、山田益弘、小川洋子